

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-3-3	事業名	路面電車活用方針検討調査				
担当	市)総合交通計画部交通企画課 松浦 211-2492						
全体計画							
事業内容	<p>「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」によって提案された、活用の基本的な方向性について、具体的な整備内容や費用対効果、その実現を可能とする事業経営のあり方を明らかにするために必要な、調査・検討を行う。</p> <p>検討にあたっては、市民はもとより関連する事業者、行政機関等と共通認識を図りながら議論を行い、その結果を踏まえて事業実現の可能性や実施内容等を検証し、事業化を判断するために必要な基本計画(案)を平成21年度までにまとめる予定。</p> <p>その後、パブリックコメントを実施したうえで、札幌市としての政策決定を行います。この結果、事業を実施する場合は、国庫補助事業として必要な手続きとしてLRTプロジェクト推進協議会の設置及び事業計画(総事業費、事業年次、資金計画等)の策定を行う予定。</p>		<年度別の事業内容>				
			【平成19年度】	・事業化の判断に必要な調査・検討			
		【平成20年度】	・事業化の判断に必要な調査・検討				
		【平成21年度以降】	・基本計画(案)の策定 ・パブリックコメントの実施 ・基本計画策定の策定 ・事業計画の策定				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(予算)				
	<p>「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」からの提言を踏まえ、民間企業などとの連携による既存線の収支改善や沿線の魅力向上に向けた具体的・実験的な取り組みを継続的に実施した。</p> <p>また、札幌市が今後事業化を判断するために必要な検討項目や検討の進め方を示した「さっぽろを元気にする路面電車活用の基本計画検討フレーム」を7月に公表し、これに基づき必要となる詳細な検討を実施した。</p> <p>事業化の判断に必要な調査・検討の委託費 20,478千円 沿線活性化に向けた連携事業への負担金 274千円 基本計画検討フレームの印刷等 161千円</p>		<p>前年度に引き続き、民間企業などとの連携による沿線の魅力向上に向けた取り組みを継続的に実施する。</p> <p>また、まちづくりと一体となったルート、他交通機関との連携方法、経営手法等に関する調査及び検討を実施し、それらの結果をもとに関係機関との協議やワークショップによる市民との意見交換等を行ないながら、事業化の判断に必要な調査・検討を実施する予定。</p> <p>事業化の判断に必要な調査・検討の委託費 16,500千円 沿線活性化に向けた連携事業への負担金 500千円 市民議論等 2,000千円</p>				
達成目標の状況							
項 目		18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
基本計画(案)の策定		検討	調査・検討	調査・検討	策定	/	策定 (21年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 既存線の収支改善や沿線の魅力向上に向けた具体的・実験的な取り組みを、学生、都心商業者、沿線施設管理者などとの連携・参加により継続的に実施している。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 沿線の活性化に向けた連携事業の実施に際し、銀行や都心商業者等からの協賛を受けている。 [人材協力] 沿線の活性化に向けた連携事業の実施に際し、地域住民や学生等がボランティアとして参加している。 [情報協力] 新聞やラジオ、情報誌などの情報媒体を利用した情報提供を積極的に実施している。 [その他の協力] 沿線の活性化に向けた連携事業を、沿線施設管理者や都心商業者等と協働で実施している。</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり 沿線の活性化に向けた連携事業の実施は、民間企業等と共同で協議会を設置しており、様々な主体が参加できるようにしている。</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード		5-3-3		事業名	路面電車活用方針検討調査	
評価(成果)				課題		
<p>平成19年度は、「さっぽろを元気にする路面電車活用の基本計画検討フレーム」については、記者発表により公表するとともに、市電フェスティバルやパネル展等様々な機会を利用して情報提供を実施した。</p> <p>また、路面電車活用の事業化判断に向けた検討については、存続を決定した路面電車を、今後のまちづくりにどのように活用すべきかについて、客観的な判断を行うために必要となる効果検証の基本的な枠組みや、都心部での導入による自動車交通への影響を把握するために必要となる交通予測モデルなどの作成を行った。</p> <p>平成20年度は、これらの結果を基に導入ルートの詳細検討や自動車交通への影響評価、事業実施による効果算出などについて、市民、商業者、関係行政機関等との意見交換を行いながら進める予定。</p>				<p>都心では、現在、北海道新幹線の札幌延伸の可能性のほか、市民会館の建て替えを含む創世1.1.1区等新たな集客交流施設が複数計画されており、これらを踏まえた、まちづくりと一体となったルートの検討が必要。</p> <p>また、積雪寒冷な札幌でも走行可能な低床車両等について、メーカー等の開発動向の見極めが必要。</p>		
今後の事業の予定・方向						
<p>平成20年度は、前年度に引き続き、民間企業などとの連携による既存線の収支改善や沿線の魅力向上に向けた具体的・実験的な取り組みを継続的に実施する。</p> <p>また、まちづくりと一体となったルート、他交通機関との連携方法、経営手法等に関する調査及び検討を実施し、それらの結果をもとに関係機関との協議やワークショップによる市民との意見交換等を行ないながら、事業化の判断に必要な調査・検討をさらに深めていく予定。</p> <p>平成21年度の基本計画(案)の策定に向けては、車両や停留場等を含むトータルなデザインや将来的な事業経営手法等に対して、さらに詳細な検討が必要となる。</p> <p>基本計画(案)は平成21年度までにまとめ、その後、パブリックコメントを実施したうえで、札幌市としての政策を決定する予定。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	21,000	21,000	15,000	10,000	67,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	0
	市債 その他 一般財源	0 0 21,000	0 0 21,000	0 0 15,000	0 0 10,000	0 0 67,000
予算	事業費	21,000	19,000	-	-	40,000
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債 その他 一般財源	0 0 21,000	0 0 19,000			0 0 40,000
実績	事業費	20,913	-	-	-	20,913
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債 その他 一般財源	0 0 20,913				0 0 20,913
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				59.6%
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度] 当初予定どおり実施した。						
[20年度]						
[21年度] 平成22年度に交通局で予定している既存線での車両更新について、導入車両のデザインは都市の魅力向上や街並みを形成する大きな要素との観点から、デザイン検討を市民まちづくり局と市立大学の協働事業として実施する。(10,000千円増加の見込)						